

〔様式 1 1〕

(対象事業：1. 地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業)

事業名：県内市町等共同企画展示事業

事業者名：香川県文化会館

連携事業館名：土庄町立中央図書館  
讃州井筒屋敷  
観音寺市立図書館

外観写真

住所：香川県高松市番町1丁目10番39号

TEL：(087) 831-1806

FAX：(087) 831-1807

HPアドレス：-

<http://www.pref.kagawa.jp/bunkakaikan/>

#### ①施設概要

香川県文化会館は、1966年に総合的な文化施設として開館し、40年の歴史を重ねています。今日では、県立美術館として、美術作品の収集・保管やさまざまな展覧会に加えて、講演会やワークショップなども行っています。

#### ②事業の意図目的

近年、文化に対する関心が高まっている。

このため、文化会館所蔵作品を県内各地で展示することにより、文化会館所蔵作品の活用を図るとともに美術に対する興味関心を一層高め、地域における文化の向上発展を図る。

#### ③事業概要

市町立の美術館や美術館施設を持たない地域では他の施設を利用して、地元ゆかりの作品を中心に、連携館の意見を尊重して作品選定を行い、美術展覧会を開催する。

広報は、連携館で周知を行なうこととし、観音寺会場のみポスター、チラシの印刷を行なったが、他の2会場では、時間的な制約もありポスターを文化会館の大型プリンターで印刷、配布した。

今回展覧会を開催した地域は、美術館を設置しておらず、美術作品を身近に鑑賞する機会が少ないこと、地元ゆかりの作家、作品を中心に展示したことから、短期間ではあったが多くの方が鑑賞に訪れた。

#### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 ( )

作成した報告書等

ビデオ ( )

冊子 ( )

その他 ( )

#### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ 3, 123人

内 訳 土庄町立中央図書館832人、讃州井筒屋敷820人、観音寺市立図書館1471人

## (1) 事業の実施状況について

当初、連携館を中心に文化会館所蔵作品の中から展示作品を選定することとしたが、地元出身作家が少ない地域、地元での活躍や知名度が必ずしも高い作家が多くない地域があったことから、関連する作品も含めて文化会館側で素案を作成し、協議する方式を用いた。この中で、土庄町立中央図書館会場の展示では、土庄町教育委員会からアドバイスを受け、作品の追加を行なった。



土庄町立中央図書館 会場風景

美術作品の展示を行なうことから、警備については特に注意をはらった。機械警備以外に、一部の施設では夜間巡回警備を委託した。展覧会開催時間中の監視業務は、それぞれの連携館で募集をお願いし、文化会館が契約した。観音寺市立図書館会場のみ観音寺市教育委員会が文化ボランティアを募集して対応した。

広報は、各連携館が中心となって周知を行なうこととし、周知に必要なポスター、チラシ、内容解説等は文化会館で準備した。観音寺市立図

書館会場のみポスター、チラシの印刷を行なったが、他の2会場では、時間的な制約もありポスターのみ文化会館の大型プリンターで印刷、配布した。このほか、県教育記者クラブへの資料提供や取材については文化会館で対応した。

今回展覧会を開催した地域は、美術館を設置しておらず、美術作品を身近に鑑賞する機会が少ないこと、地元ゆかりの作家、作品を中心に展示したこと、各連携館が主体的に広報したこと、短期間ではあったが多くの方に鑑賞していただき、当初の目的が達成できたと考えているが、準備期間が短かったこともあり、今後は十分な準備を行ない継続実施したいと考えている。

来場者数は、以下のとおりである。

|           |        |
|-----------|--------|
| 土庄町立中央図書館 | 832人   |
| 讃州井筒屋敷    | 820人   |
| 観音寺市立図書館  | 1,471人 |
| 計         | 3,123人 |



讃州井筒屋敷 会場風景

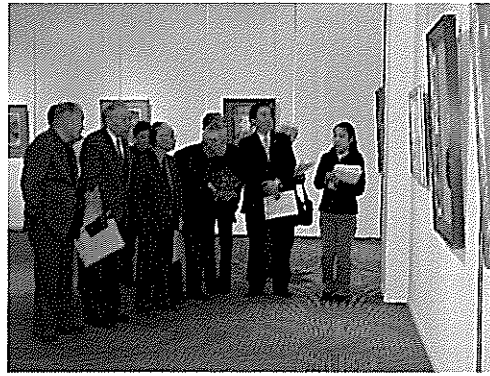
## (2) 地域との連携について

今回の展覧会は、会場準備、広報、監視等の実務面を連携館に分担していただき、作品の移動や展示、内容解説などを文化会館が分担した。

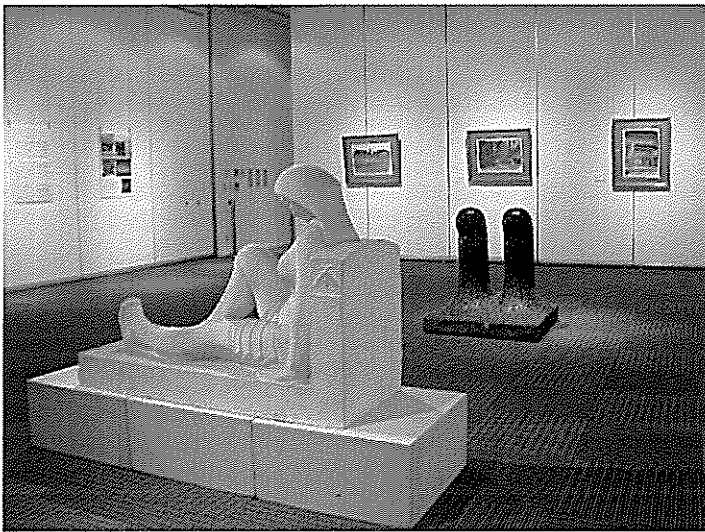
館外での展示作業は、従来、作品の貸出もしくは移動美術館的な完全な主催事業が主であったが、今回の共同企画展示事業では、それぞれの持つ特性が十分発揮できたと考えている。



観音寺市立中央図書館  
オープニングセレモニー風景



観音寺市立中央図書館  
会場風景



観音寺市立中央図書館  
展示解説 風景

今回の事業の長所として、①きめ細かな広報活動により、観覧者に地元ゆかりの作品に接する機会が提供でき、美術作品との距離が縮まったのではないかと考えられること、②移動美術館的な展示に比べて文化会館職員の準備等に要する負担が少ないこと、③各地域との関係が深まったことなどがあげられる。

また短所は、①美術館施設ではないことから作品の安全性が危惧されること、②作品の状態を確認しにくいことなどがあった。このため、展示期間を短縮せざるをえなかった。

今後は、こうした短所を改善しつ

つ、美術に対する興味関心を一層高め、地域における文化の向上発展を図っていきたい。

## (3) 成果物について

なし

#### (4) 参加者の反応

美術作品に接する機会が少なく、今回の取り組みを評価していただいたと連携館からは聞いている。

また、地元ゆかりの作家の作品を中心に展示を構成したことから、作家の親族・友人などゆかりの方々も多く展覧会に足を運んでいただいた。

来年度も実施するのかといったお問い合わせもあり、どのような形で実施するかが来年度の課題である。

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

事業目的にもあるように、「文化会館所蔵作品を県内各地で展示することにより、文化会館所蔵作品の活用を図るとともに美術に対する興味関心を一層高め、地域における文化の向上発展を図る」については、当初の目的が達成できたと考えている。

問題点としては、先にもふれたように①美術館施設ではないことから作品の安全性が危惧されること、②作品の状態を確認しにくいことなどがあげられるとともに、同一地域で継続開催する場合には、地元ゆかりの作品のみならず、より幅広い作品を選定する必要があると感じられる。また、早い段階での作品選定と広報を行なうことで、より多くの方々に観覧していただける可能性が高い。

こうした取り組みを継続することで、各地域からこの作品が見たいというような積極的なご意見が出てくるのではないかと考えており、ひいては地域における文化の向上発展につながるのではないかと、今回の事業を通して感じている。